

若者言葉に疎くても、まだ大丈夫かな??

今月始めにある学校の授業を終えたが、年度を重ねる毎に学生との年齢差がひらき、益々若者言葉に疎くなっているのが、授業に関心持つように時世にマッチした話を工夫できているかな?と、ちょっぴり不安も…(?\_?)

後日、わざわざ HP のメールアイコンから次のような授業の感想の初メール（抜粋）が学生から届き、驚き(@\_@)、かつ、伝えたい大事なことはしっかりと聴き取ってくれたようでホッとした(^o^)

・阿部先生の講義の内容は毎回リアルな現場のお話や小話が面白くてとても好きな講義の一つでした。

先生にメールを送ったのは、当事者の親御さんの「おかあさん」と、こどもに夢で呼んでもらったと言う人のお話をきいてとても胸が痛くなったことをどうしても伝えたくて送りました。

先生がその詩を読み上げているとき、とてもリアルに情景が浮かんで思わず泣いてしまいました。

当事者さんや、ご家族の方々、はたから見たら些細なことでもそれに悩み苦しんでいる事を講義を通して感じる事が出来ました。

実際現場にでたらそれはさらに感じると思います。

だからこそ相手の立場にたって本当に望んでいるものを提供できるそんなプロに私もなりたい、というよりならなくちゃいけないと思いました。

御講義本当にありがとうございました。

・講義、ありがとうございました。

毎回たいへん興味深く拝聴いたしました。

「生きるとは」、「コミュニケーションとは」等々、意識しなければなかなか考えることのないテーマだけれども、私たちが一番考えなければならないテーマについて考えるきっかけをいただきました。

正直に申し上げますと、まだ自分の答えは見えてきていません。

これからも（きっと一生かかりますね）、覚悟を決めて悩み続けていきたいと思っています。